

# 令和4年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 湯川 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

教科に関する調査(国語、数学、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

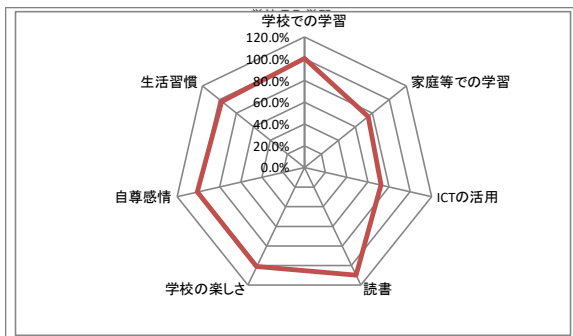
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、理科)の結果

本年度の結果	国語		数学		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	6.6	47	9.8	47
全国	9.7	69	7.2	51	10.4	49

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	書くこと、情報に関する事項については全国平均を若干上回っていた。その他の領域も全国平均に近い正答率であった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	漢字の行書の読みやすい書き方について理解する問題	
	努力が必要な問題	表現の技法について理解する問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	全体的にすべての領域の正答率が全国平均を下回る結果になった。中でも、関数の領域がさらに下回る結果であった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している問題	
	努力が必要な問題	筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	全体的に若干ではあるが、すべての領域の正答率が全国平均を下回る結果になった。すべての領域において底上げが必要となる結果であった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる問題	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<p>○「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」では、10%以上全国平均を上回る結果となった。しかしながら、昨年度と比較すると減少傾向にある。</p> <p>○「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」では、学習時間1時間以上は、全国平均約70%に対して本校は約57%であり、計画的に学習に取り組む習慣づくりが必要である。</p> <p>○自学ノート(湯川ノート)を毎日取り組むなど、学習習慣は確立されているため、今後は学習の重点をおさえるなどの工夫が必要である。</p>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

各教科、話し合う活動を通して、学びを深める取り組みを行っている。グループで話し合った結果をまとめて、共有化を図ることが主流であるが、学習内容やねらいに応じた話し合い活動を通して、比較したり分類したり、あるいは収束させたりしている。このような取り組みを継続して行い、個々がさらに考える力を養うようにする。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

今回の質問紙の気による結果として、「家庭で過ごす時間についての回答(普段(月曜日から金曜日)、1日当たり、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか)では、平日3時間以上使用と回答した生徒が35%に達し、そのことは学習時間にも影響を与えていると考えられる。家庭と連携しながらルールを決めてゲーム等の過度な利用を控えるようお願いをする。